

# 文献センター通信

第3号  
2007年7月18日  
一部100円

### 主な内容

東京の熱い夏・シネマフェスタ	1
Aブックフェア&反G8行動	2
文献センター自己紹介	2
富士宮だより	2
運営委員会議事録	2
私はアナキスト	2
会員募集/寄贈書	2
8	7
7	6
6	5
5	4
4	2
2	1

スペイン革命ドキュメンタリー映画『希望と欺瞞の間に』のDVD化と日本語字幕化完成を記念して、フィルム・フェスティバル「キネマ・フェスタヘアナーキーン」を開催いたします。

映終了後にゲスト・トークならびに参考上映を行います。

また、七月二二日(日曜日)には音楽としての「革新主義運動」を代表するシンガーソングライターD・ロビックスほかを招いてコンサートが行われます。

開催日：七月二二日(土)、二三日(日)、二八日(土)、二九日

この二二日を除く開催日には『スペインの短い夏』『希望と欺瞞の間に』を交代で上映し、上

### 〈東京熱い夏〉

## キネマ・フェスタ『アナキーン』

それぞれの映画の視点から現代の深層を撃つ——  
『希望と欺瞞の間に』日本語字幕化記念

JR・地下鉄「飯田橋駅」より大曲交差点方面徒歩一〇分  
基本タイムテーブル：  
午後二時〜スペイン革命ドキュメンタリー映画『スペインの短い夏』または『希望と欺瞞の間に』  
午後四時〜ゲストトーク  
午後四時三〇分〜DVD参考上映

この二二日を除く開催日には『スペインの短い夏』『希望と欺瞞の間に』を交代で上映し、上

(日)、八月四日(土)、五日(日)  
会場：Poetry in the Kitchen(ポエトリー・イン・ザ・キッチン) 東京都文京区水道一―二―六タトルビル二階

入場料：一〇〇〇円(資料込)  
主催：キネマ・フェスタ実行委員会(アナキズム文献センター・irregular・『アナキズム』誌編集委員会)

入場料：一〇〇〇円(資料込)  
主催：キネマ・フェスタ実行委員会(アナキズム文献センター・irregular・『アナキズム』誌編集委員会)

お医者様』『若いトランスたち』『トランス家族』他とトーク。参考『Voices from the front』  
8/2 ゲバラ 12:30-18:30  
『スペインの短い夏』。参考『モーターサイクル・ダイアリーズ』『チェ 人々の為に』、トーク・太田昌国  
8/3 闘争の現場から(エピローグ) 12:30-18:30  
『希望と欺瞞の間に』『関西公園~Public Blue~』『NO-VOXとは』 with Talk、  
『ドイツ・反G8アクション参加報告映像』 with Talk

### 【スケジュール】

7/21 prologue 13:00-18:30

『希望と欺瞞の間に』、オリジナル『ティエンポ・デ・バルセロナ』。参考上映『Durruti』『出草之歌』、トーク・井上修

7/22 live! 14:00-19:00

ライブ「若林圭子」「田中哲朗」「ロビックス」

参考『ジョリモーム』ほかインタビューなど

7/28 日本映画とアナキズム 13:00-18:30

『希望と欺瞞の間に』、トーク+映像 松田昌男×平沢剛

参考『ルイズ、その絆は』『大杉栄と伊藤野枝』

7/29 《性/別》 13:00-19:00

『希望と欺瞞の間に』、『オカマに生れて：拝啓

※詳しくはHP→

www.cira-japana.net

今年の3月、「アナキズム文献センター」のカレンダーとピラを携えアメリカ西海岸に行ってきた。サンフランシスコ、ポートランド、オリンピア、タコマ、シアトルといった西海岸の主要都市にあるほとんどのアナキスト書店・インフォショップに、アナキスト関連の書籍をセンターまで送って欲しいとのメッセージを載せた「アナキズム文献センター」のピラを置くことが出来た。

シアトルのアナキスト書店「レフト・バンク・ブックス」はその場でカレンダーを5冊購入してくれ、今回の旅の一番の目的であった、数千人規模の参加者のある毎年恒例のイベント「サンフランシスコ・アナキスト・ブックフェア」でも、たくさんのカレンダーを販売し、ピラも大量に配り、現地のアナキストたち

と交流した。

ギー・ドウボールの著作などシ

チュアシオニスト系の本の仏語から英語への翻訳で知られ、来日の経験もあるケン・ナツプは非常に親切にしてくれ、当日彼が販売していた本のすべてを「アナキズム文献センター」に寄付してくれた。また、新進気鋭のアナキスト著述家ダニエル・パートン・ローズも、彼が編集した本を「アナキズム文献センター」に寄付してくれた。

アナキスト・ブックフェアには、2〜3人程度の小さなコレクティブからIWWのような大組織まで、50〜60のテーブルが並んでいた。小さなグループ/コレクティブの多種多様さは西海岸のアナキズム運動の豊かさと同層の厚さを感じるものであったし、100年の歴史を持つIWWは、コピーショップ・チェー

「スターバックス」での組合活動など、若い力と感性を積極的に取り入れながら、現在の問題の取り組みに成功していることなどもあって、実に生き生きとしていた。小さなアナキスト・グループは、それぞれ音楽やアートなどを用いながら独自の活動を展開し、

IWWなどの大きなアナキズム系組織は、直接的ではないにしても、そのような小さなグループからの支持と影響を受けながらより活発になっている、という印象を持った。

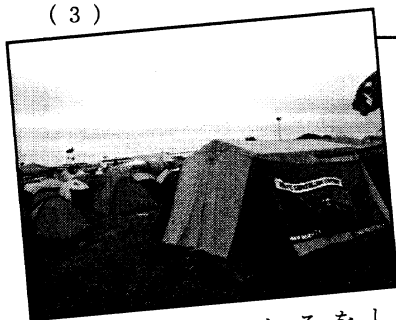


ブックフェアの会場風景(上)と、イレギュラーのテーブル

そして、アメリカから帰って間もない6月、ドイツのハイリゲンダムで行なわれたG8サミットに

対する反対行動に参加する機会を得た。

6月2日の巨大なデモ行進から



始まり、サミット会場周辺での道路封鎖、現地で落ち合った日本人活動家たちとの日本政府関係者が宿泊するホテル内での抗議行動、音楽での抵抗表現(ライブ)、突発的に発生するデモや座り込み、などなど、およそ一週間の間、毎日何かしらの行動に関わった。

それぞれの抵抗表現の多様さを認める、ということが、シアトルでの反WTO行動以来、反グローバルイゼーション運動のなかでの基調だが、今回もまさに多種多様、自発的に行動する人々の創造的な抵抗がサミット会場周辺のあちこちで展開された。警察や銀行・大企業のビルに投石する者もいれば、

音楽を演奏して抗議者を勇気づける者もいたし、ピエロの格好で戯けながら警察のフオーメーションを崩す

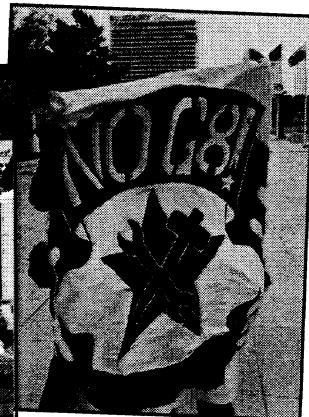


者もいた。それぞれが思い思いの方法で、G8反対の意思表示をし、G8に押し付けられる世界とは違う世界があり得る(またはすでにある)ことを表現していた。サミットを阻止することは出来なかったが、掲げられていたスローガン「もう一つの世界は可能だ!」という言葉に、手ごたえを感じられたことは非常に大きな経験だった。反G8行動の前後には、コペンハーゲン、ベルリンやハンブルグなどの都市に滞在し、それぞれの

地域のアクティヴィストたちと交流し、スクワットやインフォショップなどにも案内してもらった。そのような場所では、皆で食事したり、街頭行動の準備をしたり、自転車を修理したり、上映会したり、パーティーしたりと、毎日何かしらで人が集っており、大企業や国家の思惑に振り回されるのではない、自分たち自身の価値観に基づいた生活を、言葉よりも先に实际的に、地道だけれども楽しそうに、模索し創造する

光景があった。このような日常的なオルタナティブの実践がバックグラウンドとなって、今回の反G8のような多彩で大規模な抵抗が生み出されていることがよく分かった。

来年2008年は北海道の洞爺湖で7月、G8サミットが予定されているが、それに対する抵抗が形式的なもので終わってしまうか、「もう一つの世界は可能だ!」ということを実感出来るものになるかは、今から一年の間に様々な立場の人が、それぞれの抵抗手段の多



様性を認めながら、G8が強要する世界とは違う自由な世界の可能性を、どれだけ実際的かつ日常的に具体化・視覚化していけるかどうかがだろう。

